

第二期奈良市子どもの豊かな未来応援プラン  
(奈良市子どもの貧困対策計画)  
行動計画

令和5年3月

## 目 次

1	庁内行動計画の作成にあたって	1
2	第一期奈良市子どもの豊かな未来応援プラン（奈良市子どもの貧困対策計画）の 取り組みと総括について	1
3	本市の子どもを取り巻く現状と課題と子どもの貧困対策推進	2
4	第二期計画の進捗管理について	3
5	進捗管理シートの説明	4
6	庁内行動計画の作成経過	4
7	各事業の目標値・指標について	別紙

## 1 作成にあたって

令和元（2019）年6月に子どもの貧困対策の推進に関する法律（子供の貧困対策推進法）が一部改正され、さらに、現在から将来にわたって、全ての子供たちが前向きな気持ちで夢や希望を持つことのできる社会の構築を目指すこと、子育てや貧困を家庭のみの責任とせず、子どもを第一に考えた支援を包括的・早期に実施するなどの基本的な考え方の下、同年11月に新たな「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定されました。

大綱の改正点として、①支援が届いていない、又は届きにくい子供・家庭に配慮して対策を推進すること、②困窮層は多様であること、③経済的支援だけでなく、複合的、包括的な支援が必要であることが明記されたことが前回からの改善点となっています。

奈良市においても、国の法律改正や新たな大綱に対応するため、令和4年度より「第二期奈良市子どもの豊かな未来応援プラン（奈良市子どもの貧困対策計画）（以下、「第二期計画」）」を策定し、子どもの貧困対策に引き続き取り組んでいます。

本庁内行動計画は、令和4年度からの第二期計画に庁内がどのように取り組むのかを示し、定期的に進捗を確認し、改善点を修正し、さらなる子どもの貧困対策につなげるため作成するものです。

## 2 第一期奈良市子どもの豊かな未来応援プラン（奈良市子どもの貧困対策計画）の取組と総括について

### <取組>

年度	取り組んだこと	解説
平成29	奈良市子どもの豊かな未来応援プラン（奈良市子どもの貧困対策計画）の策定	計画に子どもの貧困対策に効果的と思われる事業をリンク
平成30	① 奈良市子どもの豊かな未来応援プラン（奈良市子どもの貧困対策計画）行動計画の策定 ② 学習支援事業開始  ③ 奈良市子どもの豊かな未来応援プラン（奈良市子どもの貧困対策計画）推進会議の開始	① 子どもの貧困対策に効果的と思われる事業の目標、指標設定 ② 「子どもの生活に関するアンケート」（平成28年）より、子どもの貧困対策に必要と思われる事業を事務局で展開。 ③ 有識者の意見を入れ、子どもの貧困対策を推進するための議論を活発化
令和元	本計画の2年延長	この年に国で「子どもの貧困対策の推進に関する法律」と「子供の貧困対策に関する大綱」の改正があり、新指標等が追加になったため、実態調査を行い、計画を見直す必要性が出た。

令和2	奈良市フードバンク事業開始	新型コロナウイルス感染症の感染拡大から、子どもの貧困が進む恐れがあったため、特定非営利活動法人フードバンク奈良に事業委託して子どもの食の支援を行った。
令和3	第二期計画策定	・子ども、保護者に対する「奈良市子どもの生活に関するアンケート」を実施。 ・国で子どもの貧困対策推進法及び子供の貧困対策に関する大綱の改正があったため、奈良市の第二期計画として改正点を取り入れる。

<総括>

- ・学習支援事業、奈良市フードバンク事業により、地域のNPOや地区社会福祉協議会、民生委員等の協力・協働を得ることができた。
- ・指標では、どのような結果が得られたかがわかるような指標を検討する必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により対応が変わっている事業もあると思われることから、目標設定の見直しが必要であり、実績に合わせて設定した目標値ではなく、問題の絶対量に対してどれくらいの実績であるのかを明確にして設定する必要がある。

### 3 本市の子どもを取り巻く課題と子どもの貧困対策推進

令和3年度における統計資料分析、アンケート調査結果から、本市の子どもを取り巻く課題を、「関係機関と連携した支援の整備」「経済的支援」、「居場所」、「生活支援」、「教育支援」の5つの視点で整理を行いました。

	令和3年度アンケート等からの課題	本市の子どもの貧困対策推進
関係機関と連携した支援の整備	<p>① 支援ネットワークによる「つなぎ」体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で悩みを抱えることなく、悩みを相談できる人や相談しやすい窓口の整備が必要。</li> </ul> <p>② 困難を抱える家庭へ必要な支援が届く体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な支援へつなぐことができる相談窓口や支援者のネットワークの構築が必要。</li> <li>・支援者への啓発や研修の充実が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談として、支援が必要な家庭に携わる支援者を配置</li> </ul> <p>⇒ 庁内外の支援や相談窓口についての情報を把握し、家庭の困りごとに合わせて適切な支援につなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てについて困りごとがある</li> <li>・どこに相談したらよいか悩んでいる</li> </ul> <p>⇒ 「子ども家庭総合支援拠点」（奈良市子どもセンター）が子育て家庭に関わる相談について総合的に受付を行い、関係機関との連携を図る。</p>

経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの進学・就学費用がかかる。</li> <li>・子どもの医療費がかかる。</li> <li>・保護者の就労支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種手当や医療費助成、就学援助等を活用し、子育てに係る経済的負担の軽減を図る。</li> <li>・就労収入により生活の安定を図るため、就労相談や資格取得等の充実を図る。</li> </ul>
居場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが家庭や学校以外で安心して過ごせる環境づくりとして、地域と連携し、多世代で交流でき、社会との接点になる第3の居場所づくりをすすめていくことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所の確保。</li> <li>・地域子育て支援拠点等の公の施設だけでなく、居場所の整備、地域における資源の開発などを行う。</li> </ul>
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがひとりで悩むことがないよう気軽に相談できる支援が必要。</li> <li>・人との関わりのなかで、褒められる、認められる等の経験が得られる場をつくることが求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て、保育の環境を整備。</li> <li>・子育て世帯の様々な悩みに寄り添った相談支援体制の充実を図る。</li> </ul>
教育支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の向上や学習習慣の定着、進学等が悩みとして多くあげられている。</li> <li>・所得格差や家庭環境が保護者の学習に対する認識に影響し、さらには子どもの学習習慣や学習の機会に影響することが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが家庭環境等に左右されることなく、自分の能力・可能性を伸ばし夢に挑戦できるよう学力の向上に向けた取組を進める。</li> <li>・学校や地域と連携し、多様な状況にある子どもたちに対し、個々の状況に応じた教育の充実、生きる力をはぐくむための機会の提供を進める。</li> </ul>

#### 4 第二期計画の進捗管理について

子どもの貧困対策は多岐にわたり、状況に応じて重点とされる施策が変わっていくため、現状把握と理解に努めるための情報・データ収集を行い、得られた情報・データを価値判断の材料として意思決定を行い、実行に移します。

そして、情報収集→価値判断→意思決定→実行を繰り返して子どもの貧困率改善につなげます。

具体的には、庁内各課で実施している施策や事業について、子どもの貧困対策推進会議で主要事業の進捗確認を行い、有識者からの意見を交え主要事業が子どもの貧困対策に効果的であるかを判断し、本市の子どもの貧困対策としての位置づけを決め、施策の展開及び軌道修正を図ります。

## 5 進捗管理シートについて

- ・ 事業のゴール (Goal)  
第二期計画期間内で到達する各事業の目標になります。
- ・ 事業のゴールの数値目標 (KGI)  
目標を数値化しています。
- ・ 事業成功の鍵となるもの (事業を強化すべき部分) (CSF)  
事業の最も弱い箇所に着目し、その部分を強化するという考え方です。  
そして、その弱い箇所が強くなれば、次に弱いところを強化し、順々に弱い箇所をなくしていくと、結果として事業全体が強くなるという考え方です。  
つまり、記載時点で一番弱い箇所こそが、事業成功の鍵となるものという考え方です。  
ここを組織全体で支援することができれば、事業強化につながります。  
一番弱い箇所が強化されれば、また別の弱い箇所が次の事業を強化すべき部分となるため、期中でも変更しなければいけません。
- ・ KPI (事業成功の鍵となる数値目標)  
KPI 目標を達成していれば、最終的に事業のゴールの数値目標も達成となり、KPI 目標が未達成であれば、そのままでは事業のゴールの数値目標も未達成になります。  
つまり、KPI は事業のゴールの数値目標の「先行指標」である必要があります。  
この場合 KPI は「信号」という意味合いを持ち、KPI の数値は1つです。  
安定的に KPI が達成できるようになったら、次の弱い箇所を強化することになるため、期中でも速やかに変更しなければいけません。

## 6 庁内行動計画作成経過

- |      |     |                                     |
|------|-----|-------------------------------------|
| 令和4年 | 4月  | 第二期計画を策定、公表                         |
|      | 5月  | 子どもの貧困対策に関連のある事業担当課との指標等資料作成        |
|      | 7月  | 進捗管理のため、目標値、指標等を設定                  |
|      | 10月 | 子どもの貧困対策庁内研修会を実施<br>子どもの貧困対策庁内会議を実施 |
|      | 11月 | 研修会に基づき進捗管理を再度見直し                   |
|      | 12月 | 子どもの貧困対策推進会議を開催                     |
| 令和5年 | 1月  | 子どもの貧困対策推進会議に基づき進捗管理を再度見直し          |
|      | 3月  | 庁内行動計画を作成                           |

## 7 主な施策の目標値・指標

第二期計画での主な施策の目標値・指標については、別紙のとおりです。